〔伊呂波字類抄古人體〕吃コトヽモリ語難也　訥同

〔增補下學集上支體〕吃コトヽモリ

〔萬安方四十〕語吃ドモリ居一反語難

千金論、小兒初出、腹有連舌、舌下有膜、如石榴子、中隔膜連其舌、下後合、兒言語不發、舌不轉、謂之語吃、可以摘斷之、微有血出無害、若血出不止可燒髮作灰末傅之血便止、

〔倭訓栞中編十六〕どもる　吃をいふ、嘿をだまるといふに同じ義なるにや、俗に吃者をどもといへり、川魚にどもといふは鯊魚の類なり、又吶もよめり、

〔和漢三才圖會十人倫之用〕瘖瘂○中略

吃ドモリ　重言也、口不便言也、

小兒就瓢及瓶、飲水令語訥、又多似吃人、亦傳染、

〔病名彙解五計〕謇吃キツ　舌ナヘテ、物ヲエイハザル也、病源ニ云、府藏ノ氣不足シ、邪氣ト正氣ト相搏テ口舌ノ間ノ脉ヲ搏トキハ、舌澀シ、氣壅滯シテ、言ヲシテ謇吃セシムル也、謇ハ謇ト同ジ、止言ナリ、又吃ナリ、吃ハ口不便言ナリ、

〔類聚國史六十六薨卒〕弘仁十三年五月癸巳、伊勢守從四位下藤原朝臣藤成卒、右大臣從二位魚名之第五男、口吃言語澀、歷任內外、無可無不可、時年卅七、

〔枕草子五〕なまめかしきもの

弁のおとゞといふにつたへさすれば、○清少納言返歌きえいりつゝ、えもいひやらず、などかくとみをかたぶけてとふに、すこしことゞもりする人の、いみじうつくろひめでたしときかせんと思ひければ、えもいひつゞけずなりぬるこそ、中々はぢかくす心ちしてよかりしか、

〔源氏物語二十六常夏〕をしことどもりとぞ、大ぞうそしりたるつみにもかぞへためるかしとの給て、